

認知症サポート医養成研修 | 国立長寿医療研究センター

認知症サポート医養成研修事業

認知症にかかる地域医療体制構築の中核的な役割を担う「認知症サポート医」の養成。

※実施主体は都道府県及び指定都市。国立長寿医療センターは厚生労働省より委託を受け、認知症サポート医養成研修を実施しています。

認知症サポート医の役割

1. 都道府県・指定都市医師会を単位とした、かかりつけ医を対象とした認知症対応力の向上を図るための研修の企画立案
2. かかりつけ医の認知症診断等に関する相談役・アドバイザーとなるほか、他の認知症サポート医（推進医師）との連携体制の構築
3. 各地域医師会と地域包括支援センターとの連携づくりへの協力

→地域における「連携」の推進役を期待されている

認知症サポート医の機能・役割



機能・役割

- 1) 認知症の人の医療・介護に関わるかかりつけ医や介護専門職に対するサポート
- 2) 地域包括支援センターを中心とした多職種連携作り
- 3) かかりつけ医認知症対応力向上研修の講師や住民等への啓発

地域における「連携の推進役」を期待されている

研修修了者数

平成29年末現在の累計研修修了者数は8,217人となっています。

<http://www.ncgg.go.jp/kenshu/kenshu/27-1.html>